

第2章 ハケ遺跡第18地点の本調査

I 遺跡の立地と環境

ハケ遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面のいわゆる川崎台の東側付け根に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。遺跡の北側は落差2m程度のゆるい斜面を形成し、小支谷が入る。標高は14～16mで、遺跡の範囲は南北360m、東西160m以上ある。宅地開発される遺跡中央に畑が残る。

周辺の遺跡は、舌状台地の北側に旧石器、縄文、古墳～奈良・平安時代、中近世の川崎遺跡が隣接し、台地続きの南東側に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の著名な上福岡貝塚、権現山遺跡がある。

1976年以降、宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、2015年12月現在20ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代前期から後期の住居跡、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、近世鍛冶遺構(旧福田屋跡)と、2014年に第16地点の発掘調査で、古墳の周溝から6世紀後半の人物埴輪と円筒埴輪多数が出土した。さらに今年度の調査で6世紀代の円墳3基が新たに確認、検出された。

本遺跡は、かつてハケ遺跡A、ハケ遺跡B、ハケ遺跡Cと呼称していたが、現在はハケ遺跡に統一した。

II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2014年11月4日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を行った。

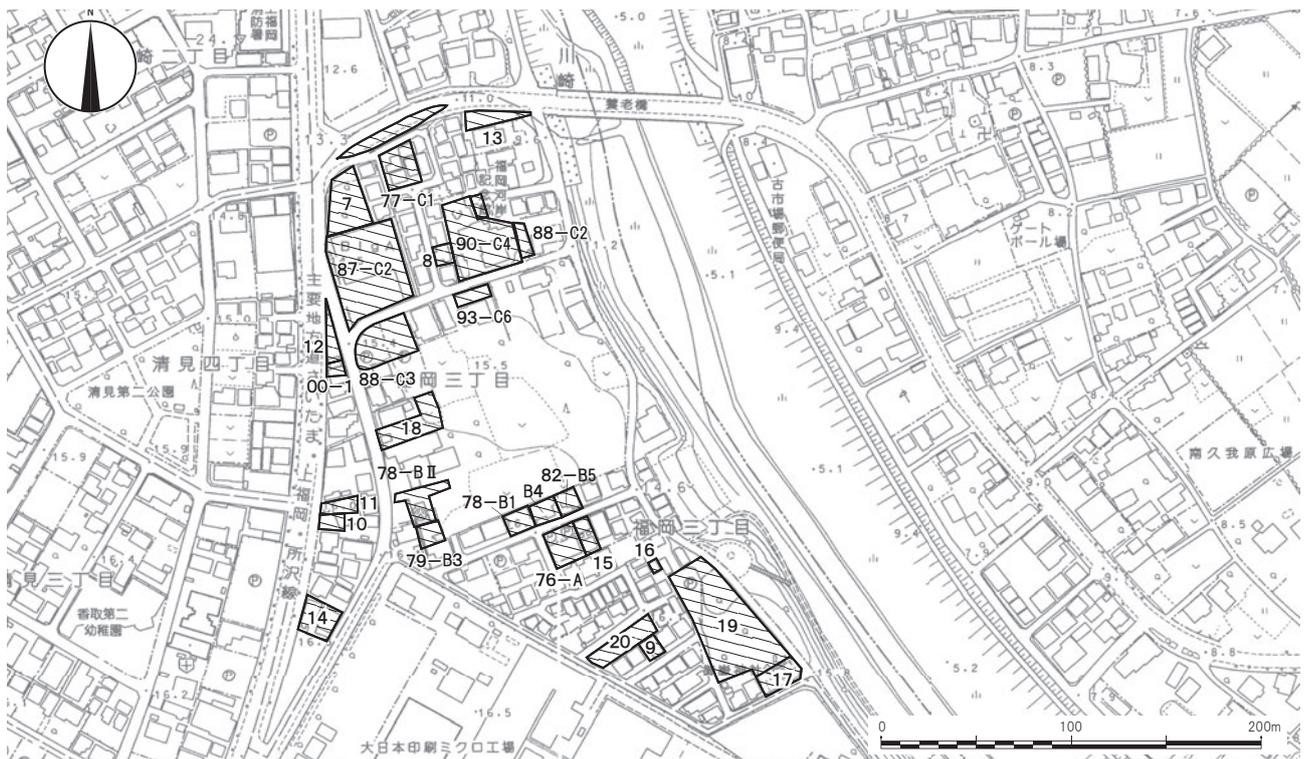
試掘調査は12月4日から10日まで行い、幅約1から1.5mのトレンチ5本を設定し、重機による表土除去後、人力による調査を行った。

試掘調査の結果、縄文時代の住居跡や炉跡、近世以降の溝などを確認した。地表面から遺構確認面までの深さは約30cmで、遺跡への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。

本調査は遺跡の確認された区画を、翌年1月6日から14日まで人力による表土除去後、本調査を行った。

調査区内に1m方眼の区画を設定した。

試掘調査と本調査で確認された遺構は、縄文時代の住居跡1軒と屋外炉2基・土坑2基、近世以降の溝4本である。遺物は縄文土器と石器、陶磁器などである。



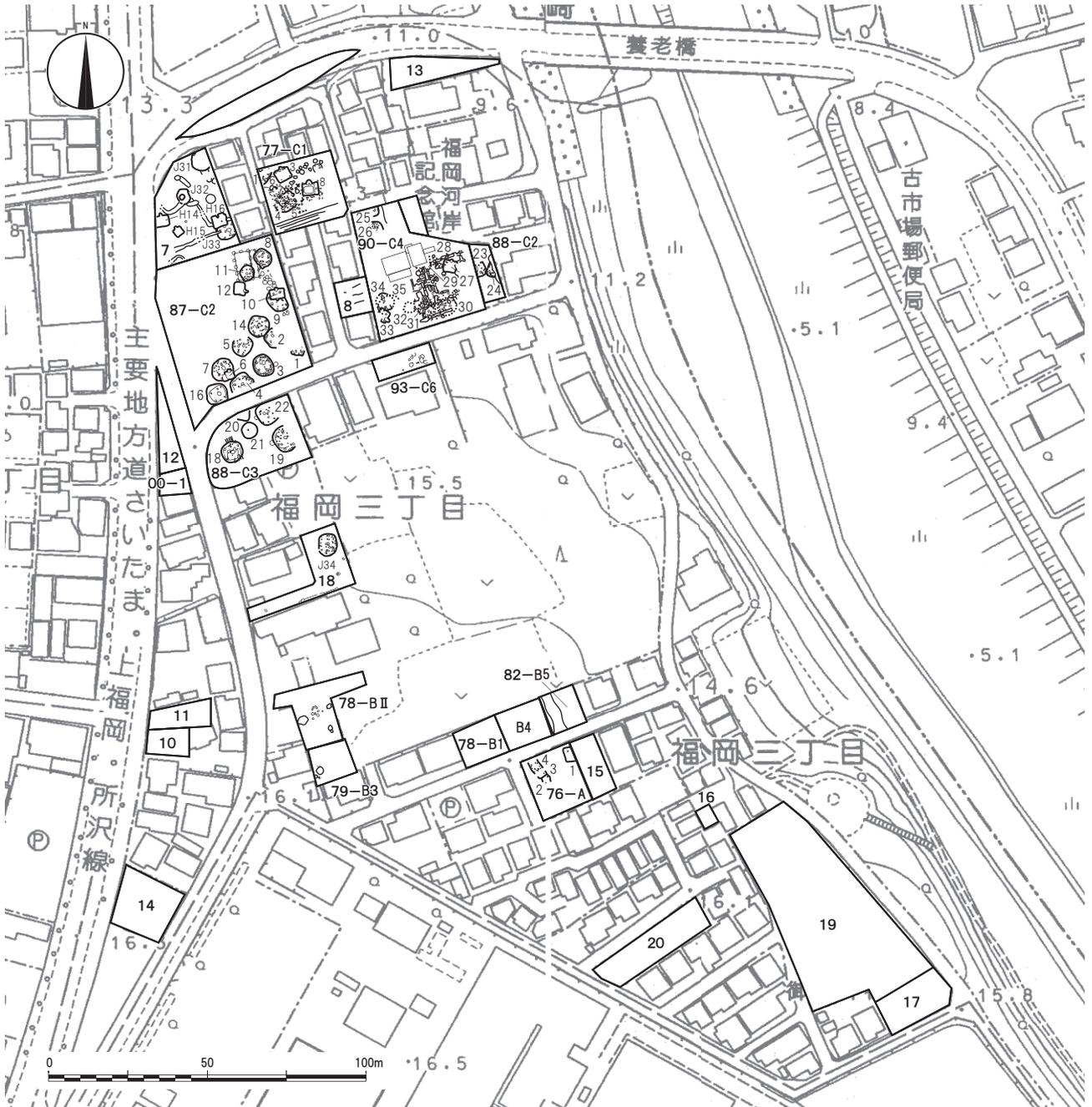
第3図 ハケ遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第2表 ハケ遺跡調査一覧表

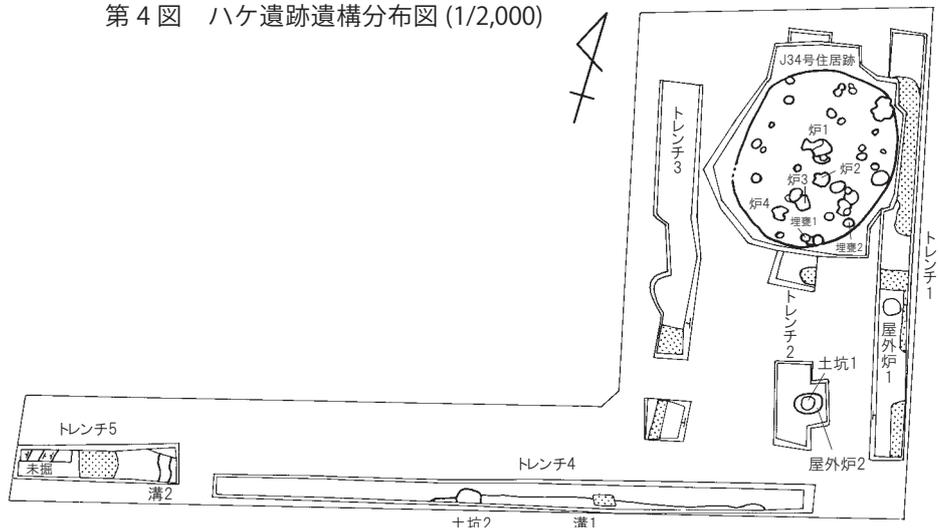
地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
A-1次	大字中福岡字遠見1228～2021	1976.9.11～16	306	個人住宅	古墳住居跡1、竪穴状遺構3、縄文土器	上福岡市遺跡調査報告書
C-1次	大字中福岡字清見1480番地	1977.8.2～27	1,794	宅地造成	縄文住居跡5、奈良平安住居跡2、竪穴状遺構、土坑、炉跡	ハケ遺跡調査会 ハケ遺跡C地区
B-1次	中福岡1228-40	1978.8.28～9.10	165	個人住宅	遺構なし、縄文中期土器片	埋蔵文化財の調査(I)
B-2次	中福岡1181-2	1978.9.11～25	360	貸家建設	土坑4、炉跡1、土器	埋蔵文化財の調査(I)
B-3次	中福岡1228-37	1979.7.20～31	166		土坑3、縄文土器	埋蔵文化財の調査(II)
B-5次	大字中福岡字遠見1228-46	1982.5.10～17	165		溝1、縄文中期土器	埋蔵文化財の調査(V)
C-2次	福岡3-2068-1、2	1987.4.16～5.29	1,900	倉庫付住宅改築	縄文中期住居跡11、奈良平安住居4、掘立1	埋蔵文化財の調査(X)
C-3次	福岡2-2-1	1988.8.15～20	627	駐車場	縄文中期住居跡4、平安住居跡2	埋蔵文化財の調査(11)
C-試	福岡3-4-2	1988.10.24～28	60	擁壁改修工事	縄文前期住居跡1	埋蔵文化財の調査(11)
C-4次	旧福田屋敷地内	1990.6.20～9.6 H3.1月末～継続調査予定	500		旧福田屋柱礎石跡、鍛冶屋建物跡、(礎石・火処3・物置跡・粘土貼りつけ円形小竪穴)・江戸前期～中期長方形土坑12・溝1・平安住居跡3・縄文中期住居跡2、縄文後・晩期住居跡3	2年度教育要覧 市史資料編
C-6次	福岡3-1189、2065-2	1993.5.6～18	142	個人住宅	縄文中期土坑6	埋蔵文化財の調査(16)
C-4次	福岡3-2069-1の一部	1994.6.10～1.31	54	河岸記念館管理棟・ 庭造成工事	縄文中期住居跡5、土坑30	埋蔵文化財の調査(17)
C-試	福岡3-1884-8	2000.1.26	100	個人住宅	遺構遺物なし	埋蔵文化財の調査(22)
C-7次	福岡3-2	(2006.7.10～22)	666	宅地造成	縄文・奈良平安遺構検出	市内遺跡群3
C区8	福岡3-2069-9	(2009.3.17)	99	個人住宅	住居跡確認	市内遺跡群6
C区9	福岡3-1257-7、1259-1	(2010.2.2～4)	120	個人住宅	土坑1、風倒木1	市内遺跡群8
10	福岡3-1363-14	(2011.4.22)	122	個人住宅	時期不明溝1	市内遺跡群14
11	福岡3-1363-11	(2011.4.21～22)	158	分譲住宅	縄文時代屋外埋蔵1、土器	市内遺跡群14
12	福岡3-1472-1	(2012.9.24)	122	個人住宅	ピット1、土器	市内遺跡群15
13	福岡3-1484-1	(2013.10.3)	183	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
14	福岡3-1363-15	(2013.11.22)	144	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
15	福岡3-1228-19	(2014.4.8-9)	184	共同住宅	遺構遺物なし	未報告
16	福岡3-1254-7・14・17	(2014.8.11～9.2)9.3～9.9	68	連立住宅	古墳の周溝1、埴輪、縄文土器	未報告
17	福岡3-1219-1・2	(2014.9.26～30)	99	個人住宅	現代のゴミ穴1、近世～現代陶磁器、ガラス製品	未報告
18	福岡3-1182.2066-5	(2014.12.4～10)2015.1.6～16	511	個人住宅	縄文時代中期住居跡1、炉4、土坑2、溝2、縄文土器	市内遺跡群16
19	福岡3-1222-1.1223～1225.1255	(2015.3.17)	2,297	宅地造成	古墳2、溝2、縄文土器、土師器、埴輪	未報告
20	福岡3-1222-1.1223～1225.1255	(2015.3.17)	375	分譲住宅	古代以降の堀跡1、土坑1	未報告

第3表 ハケ遺跡縄文時代住居跡一覧表 (単位 cm)

住居 番号	調査 年度	調査名	調査率	平面形 ()は推定	規模	炉			埋壘	周溝	主軸方位	時期	備考	文献
						地床	炉体	石皿						
1	1977	C地区1号住	1/4	(円形)	600×			○				加曾利E II		ハケ遺跡C地区
2	"	C地区4号住	完掘	楕円形	(600)	○						加曾利E I		"
3	"	C地区5号住	完掘	(方形)	400×500	○						諸礎		"
4	"	C地区6号住	(完掘)			○						加曾利E III	7住と重複	"
5	"	C地区7号住					○	○				加曾利E I		"
6	1987	C地区2次1号住	1/3						○			加曾利E I		埋蔵文化財の調査X
7	"	C地区2次2号住	西1/2	隅丸台形				○		○		加曾利E I	連弧文土器出土	"
8	"	C地区2次3号住	完掘	楕円形	720×600			(○)		○		加曾利E II	連弧文、曾利系多い	"
9	"	C地区2次4号住	北1/2					○				加曾利E II		"
10	"	C地区2次5号住	ほぼ完掘	円形	620	○						加曾利E II		"
11	"	C地区2次7号住	完掘	円形	700			○				加曾利E II		"
12	"	C地区2次8号住	完掘	円形						○		加曾利E I	2軒の住居の重複	"
13	"	C地区2次9号住	完掘	方形	720×	○			○	○		加曾利E II	10住と重複	"
14	"	C地区2次11号住	完掘	円形	450×400	○						加曾利E II		"
15	"	C地区2次14号住	完掘	円形	660×640		○		○	○		加曾利E II	3度建替え	"
16	"	C地区2次16号住	完掘	隅丸台形	670×650	○			○	○		加曾利E II		"
17	1988	C地区3次18号住	完掘	円形	650				○2			加曾利E II	17住と重複	"
18	"	C地区3次19号住	西2/3	円形	800と500			○		○		加曾利E II	2軒の住居の重複	"
19	"	C地区3次21号住	完掘	円形	460～480				○			加曾利E I	滑石製垂飾品	"
20	"	C地区3次22号住	西4/5	不整形	700							加曾利E II		"
21	1990	C地区4次23号住	1/4	(方形)								安行1	床面から土偶	市史資料編
22	"	C地区4次24号住	西側未調査	楕円形										"
23	"	C地区4次25号住	南東隅1/4	(円形)	500							加曾利E II		"
24	"	C地区4次26号住	北東隅1/4	(楕円形)	600							加曾利E III古		"
25	"	C地区4次28号住										加曾利E III		"
26	"	C地区4次29号住							両耳壺			加曾利E III古		"
27	"	C地区4次30号住											称名寺～堀之内	"
28	"	C地区4次31号住											堀之内	"
29	"	C地区4次34号住	一部	楕円形	560					○		加曾利E I		"
30	"	C地区4次35号住	一部	(円形)	(8m×7m)	○						加曾利E III		"
31	2013	J31号住居	1/0	楕円形	690×550	○				○		勝坂～加曾利E I	H17住、集石土坑3・4と重複	市内遺跡群13
32	"	J32号住居		円形	480×408	○						勝坂II		"
33	"	J33号住居		90%	570×500	○						加曾利E II	H16住、集石土坑1、溝2と重複	"



第4図 ハケ遺跡遺構分布図(1/2,000)



第5図 ハケ遺跡第18地点遺構配置図(1/300)

Ⅲ 遺構と遺物

(1) 縄文時代の遺構

縄文時代の住居跡は1軒検出した。屋外炉2基と土坑2基は覆土層の観察から縄文時代と考えられる。

① J34号住居跡

【位置・時期】本住居跡はハケ遺跡の、縄文時代中期の集落では南西部に位置し、これまで確認されている中では最も南端の住居跡である。ハケ遺跡C地区3次調査の18・19号住居跡の南側約30～35mに位置する。

J34号住居跡は全体に耕作の影響を受けるため、残存状況は良くない。調査率は約100%である。

埋甕が2基、炉跡が4ヶ所ある点や、支柱穴とみられる柱穴が多数あり、その配置が不明な事から、本住居跡は拡張などの可能性が考えられる。

【形状・規模】平面形態は楕円形を呈する。規模は、長軸(726)cm、短軸(580)cm、深さ15cmである。

【炉】炉は地床炉で4ヶ所検出した。形状は楕円形又は隅丸長方形であるが、耕作の影響で不整形のものもみられる。

炉1の平面形態は楕円形とみられ、焼土範囲は2ヶ所である。炉1の規模は長軸62cm、短軸50cm、深さ19.5cmである。東側の焼土範囲は38×30cm、西側の焼土範囲は62×30cmである。

炉2の平面形態はほぼ楕円形である。規模は長軸65cm、短軸58cm、深さ22.2cmである。焼土範囲は43×30cmである。

炉3の平面形態は隅丸方形にちかく、規模は長軸65cm、短軸55cm、深さ17.8cmである。焼土範囲は27×19cmである。

炉4の平面形態は不整形で、規模は長軸54cm、短軸47cm、深さ10.9cmである。焼土範囲は見られないが、覆土層の観察から炉跡の可能性が高いため、今回は炉跡として捉えたい。

【埋甕】埋甕1・2共に住居内の南東部に位置する。

埋甕1は、埋甕2の南側に位置する。埋甕1の平面形態はほぼ円形を呈する。底部を欠損する深鉢形の縄文土器を正位に埋設し西に傾く。確認面径は38×28cm、深さは22.2cmである。

埋甕2の平面形態はほぼ円形を呈する。底部を欠損する深鉢形の縄文土器を正位に埋設する。確認面径は37×30cm、深さは14.8cmである。

【柱穴】柱穴は29本検出した。支柱穴は深さなどか

らみて11本で、P1～5・7・8・24～26・28である。全てが同一の時期のものではなく、建て替えや拡張などが考えられる。柱穴の詳細は第4表参照。

【遺物出土状況】耕作により、埋甕以外は住居の床面から覆土層にかけて僅かにみられるのみである。

②屋外炉

【屋外炉1】炉1は調査区東側のトレンチ1に位置する。平面形態は楕円形である。規模は確認面径75×60cm、底径30×16cm、深さ18cmである。焼土は覆土層にみられるが、面としては確認されない。

【屋外炉2】炉2は調査区南側のトレンチ2に位置する。土坑1と重複するため底部は不明である。平面形態は楕円形である。規模は確認面径123×75cm、底径45×40cm、深さ52.1cmである。焼土範囲は楕円形で25×8cmである。

③土坑

【土坑1】土坑1はトレンチ2に位置し、炉2と重複する。土坑1は炉2より新しい。検出部は円形を呈する。確認面径は58×56cm、底径45×40cm、深さ46cmである。

【土坑2】土坑2はトレンチ4に位置する。検出部は円形状を呈するが全容は不明である。確認面径は110cm、底径90cm、深さ30cmである。

④溝

【溝1】溝1は調査区の南側で、隣地と境に位置する。断面形態は逆台形、上幅40cm以上、深さ20cmである。

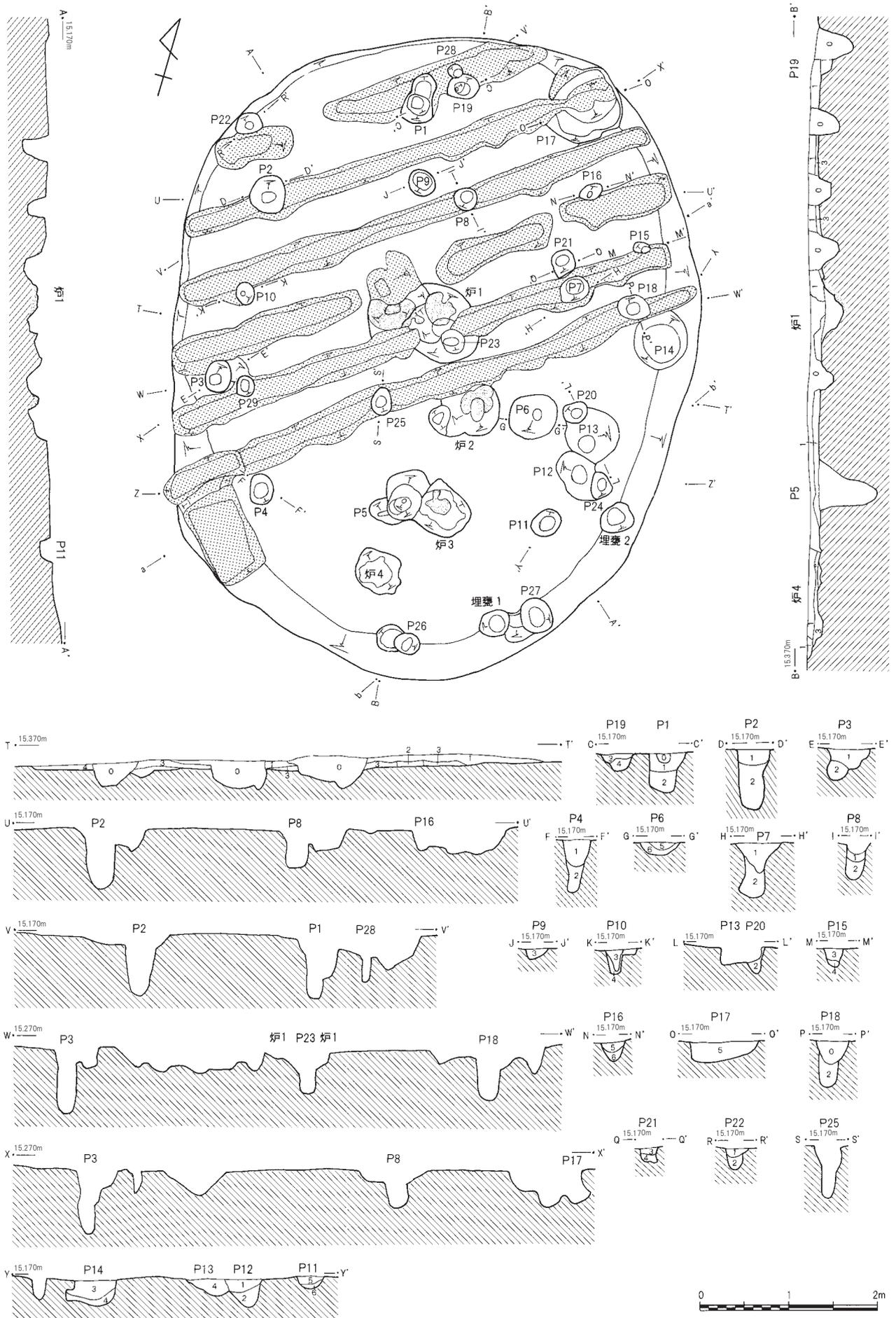
【溝2】溝2は調査区西端のトレンチ5に位置する。断面形態は浅い「U」字型で上幅48～55cm、下幅20～40cm、深さ18.6cmである。

その他に調査区西端の道路に平行して、根切り溝とみられる幅60cm以上の溝2本が確認された。溝1・2と根切り溝は近世以降の時期である。

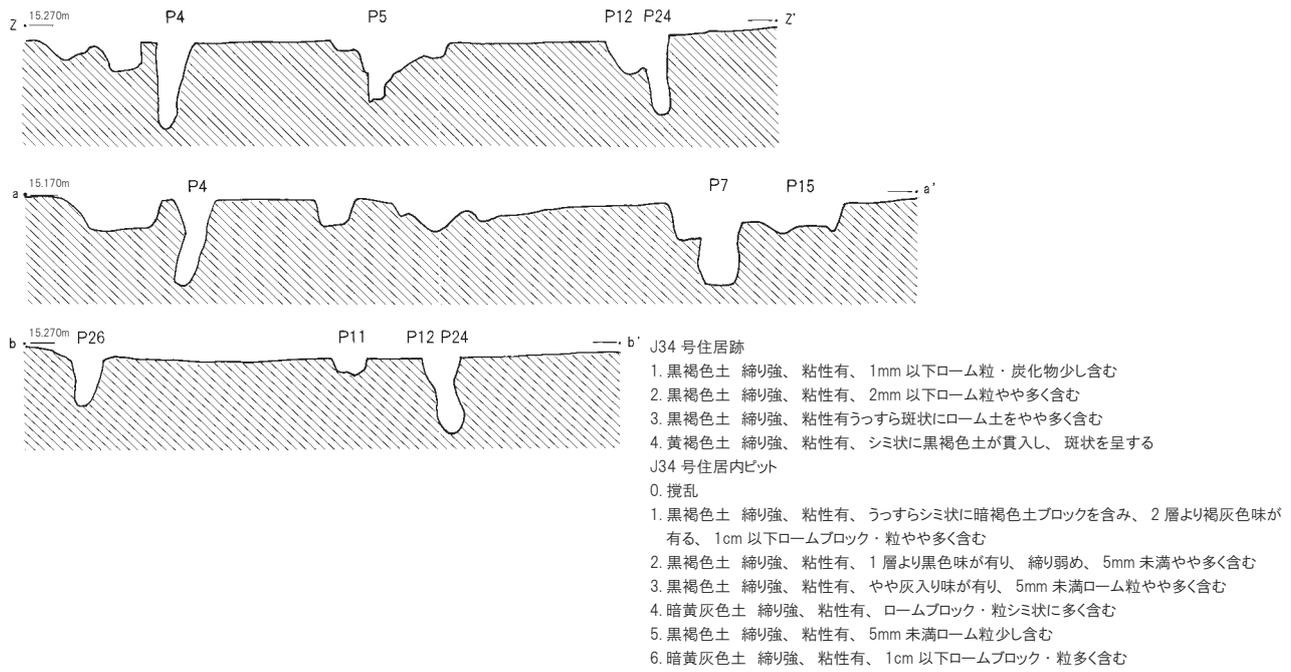
⑤出土遺物

1は埋甕1出土の深鉢形土器で、胴部下半から底部を欠損する以外の、約4/5を残存する。口径24cm、残存高16.5cmである。口縁部文様は沈線の楕円形区画内にRL縄文を施す。頸部から胴部にかけては地文RL縄文に、2本組沈線の懸垂文を施し、間を磨消す。

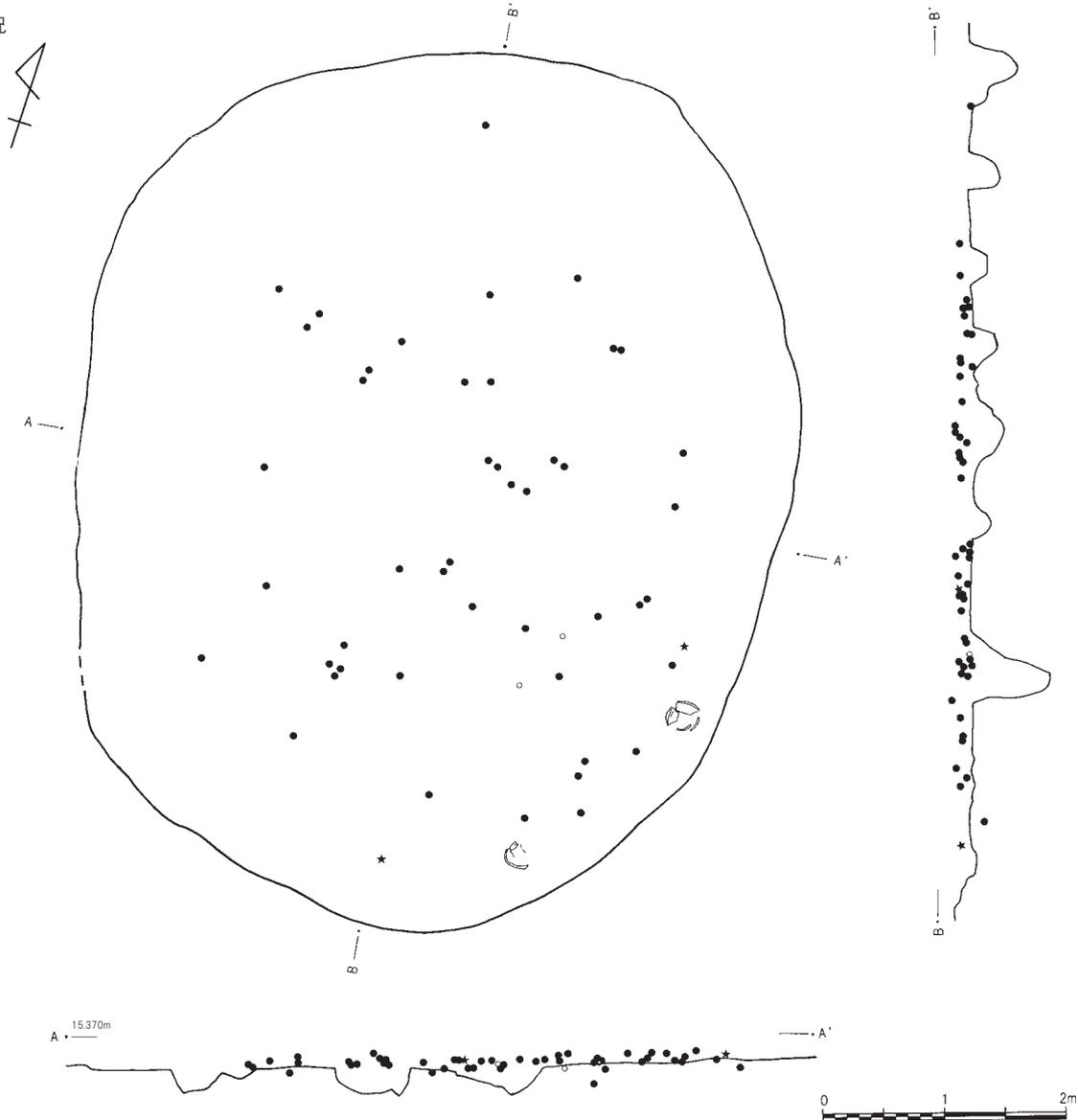
2は埋甕2出土の深鉢形土器で、口縁部の一部と胴部下半から底部を欠損する。口径22cm、残存高14cmである。口唇部は4単位の小さな三角形の突起があり、その下に沈線の緩い渦巻き文を配する。口唇部直下に1本の沈線を巡らす。頸部と胴部の境には1



第6図 ハケ遺跡第18地点J34号住居跡(1/60)

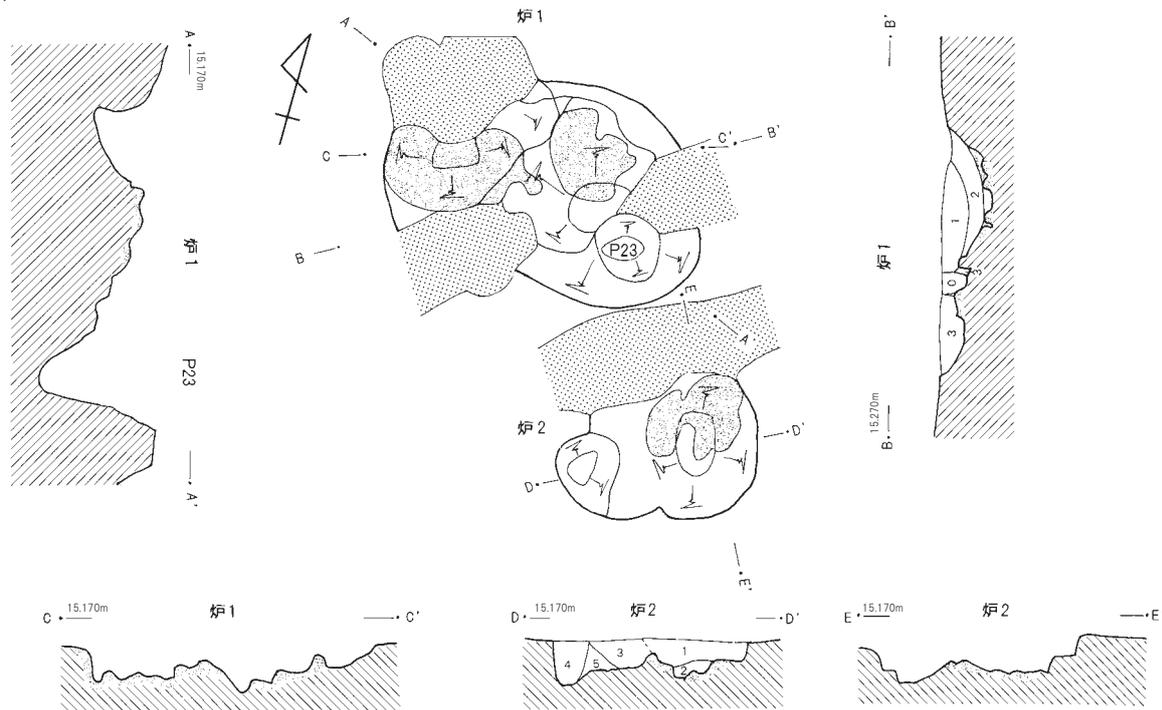


遺物出土状況

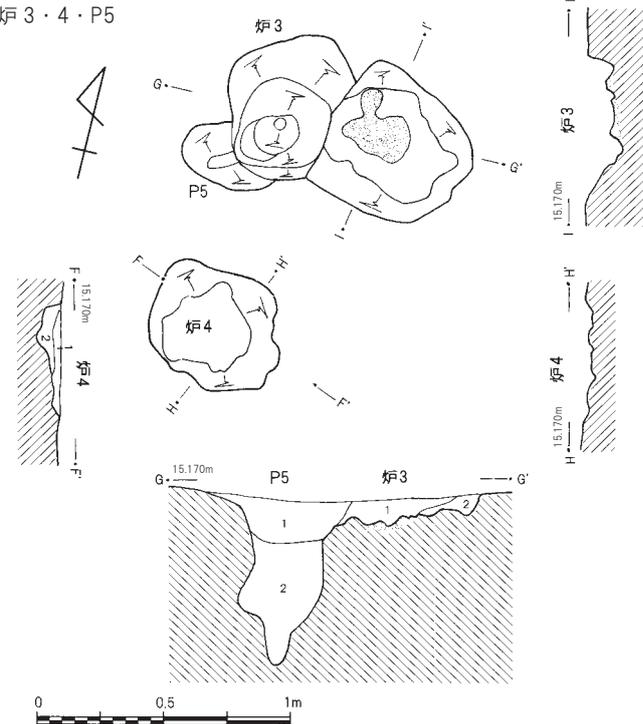


第7図 ハケ遺跡第18地点 J34号住居跡遺物出土状況 (1/60)

炉 1・2・P23



炉 3・4・P5

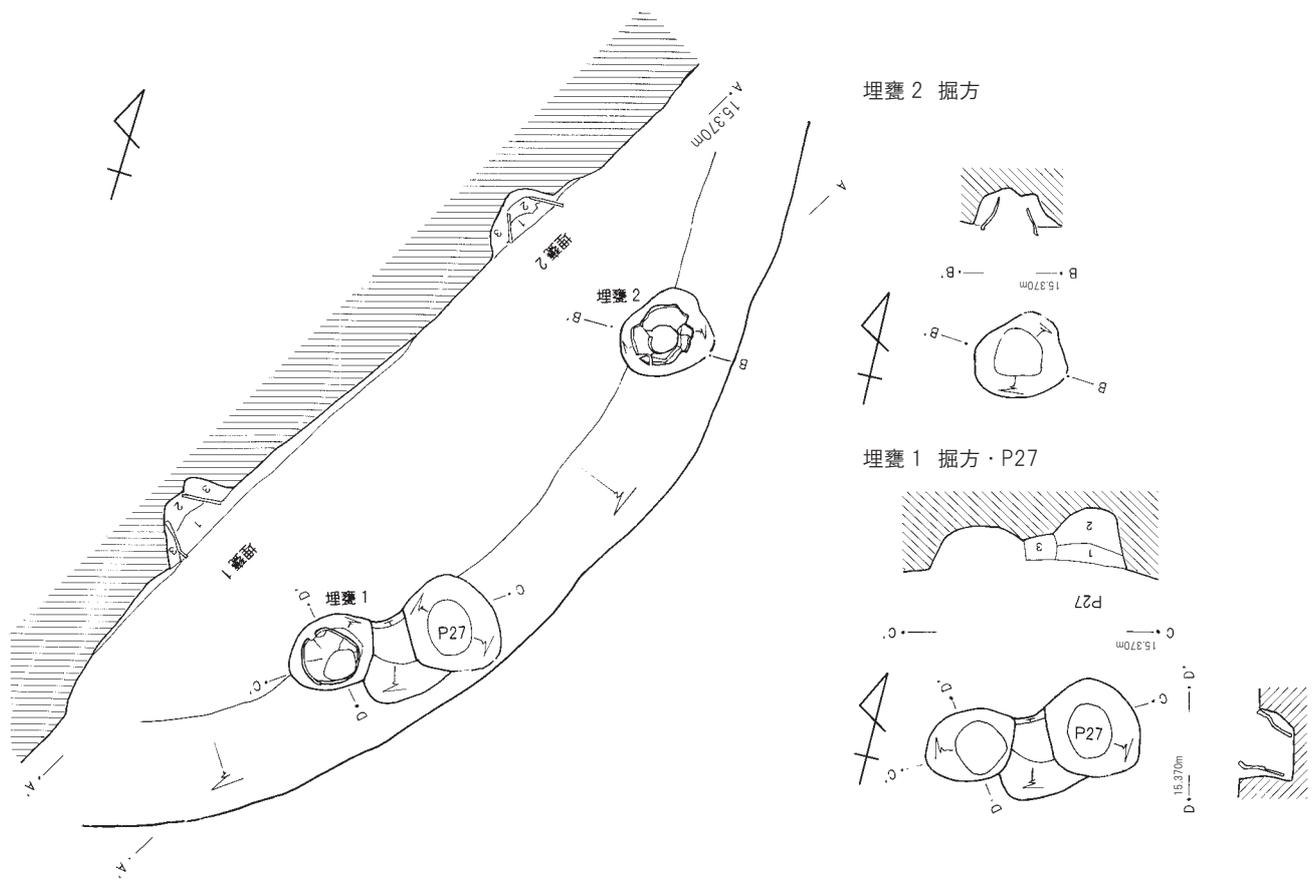


- 炉 1
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒・焼土やや多く含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒・1cm 以下焼土多く含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm 以下ロームブロック・3mm 以下ローム粒・2cm 焼土少し含む
- 炉 2
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒・焼土やや多く含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より黒色味が有り締り弱め、2mm 以下ローム粒・焼土多く含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm 以下ロームブロック・粒やや多く、5mm 以下焼土少し含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む
 5. 暗灰黄色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む

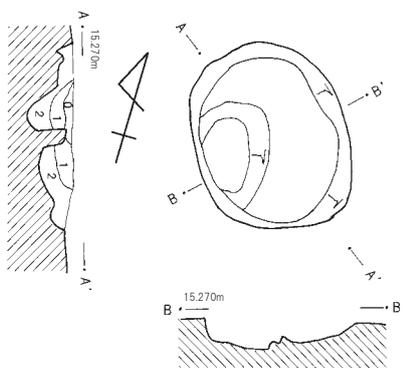
第 4 表 ハケ遺跡第 18 地点 J34 号住居跡ピット一覽表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	34×33	14×12	73.0	
2	円形	54×39	15×11	67.3	
3	円形	37×29	14×13	67.0	
4	方形	34×26	18×16	66.7	
5	方形	40×35	5×5	69.2	炉3内
6	円形	59×50	12×9	19.0	
7	楕円形	37×29	20×17	65.2	
8	円形	26×25	14×12	44.4	
9	円形	34×26	24×17	11.3	
10	円形	25×21	5×4	31.2	
11	円形	35×28	20×16	14.6	
12	不明	(60)×43	21×17	35.5	
13	(円形)	62×(56)	20×20	23.0	
14	円形	62×61	43×41	30.1	
15	不明	(20)×12	(7)×(6)	21.9	
16	楕円形	27×18	7×5	23.2	
17	不明	(90)×85	(22)×—	45.2	
18	楕円形	37×26	14×13	55.8	
19	円形	36×27	4×3	22.9	
20	円形	27×24	13×11	32.1	
21	円形	28×27	16×11	21.2	
22	方形	31×23	9×8	24.2	
23	円形	27×21	17×10	46.3	炉1内
24	楕円形	31×24	16×10	63	
25	方形	29×22	12×13	60.3	
26	円形	29×23	18×9	37.3	
27	円形	41×35	22×18	24.3	
28	円形	16×15	12×9	51.3	
29	方形	23×19	13×9	10.2	

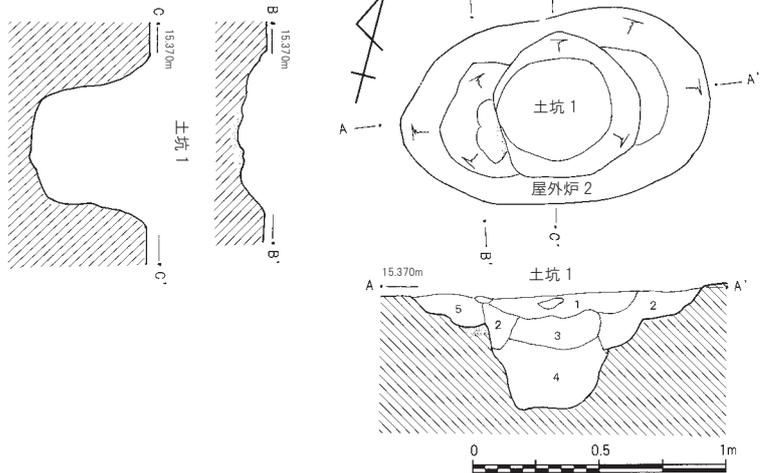
第 8 図 ハケ遺跡第 18 地点 J34 号住居跡炉 1～4(1/30)



屋外炉 1



屋外炉 2・土坑 1



埋葬 1・2

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1層より黒色味強い、5～10mm シミ状のロームブロックやや多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、埋塞の充填土、3mm 以下ローム粒少し含む

屋外炉 1

1. 黄褐色土 締り有、粘性やや弱、やや赤褐色味が有る
2. 黄褐色土 締り強、粘性有、ソフト質のローム土主体

P1・屋外炉 2

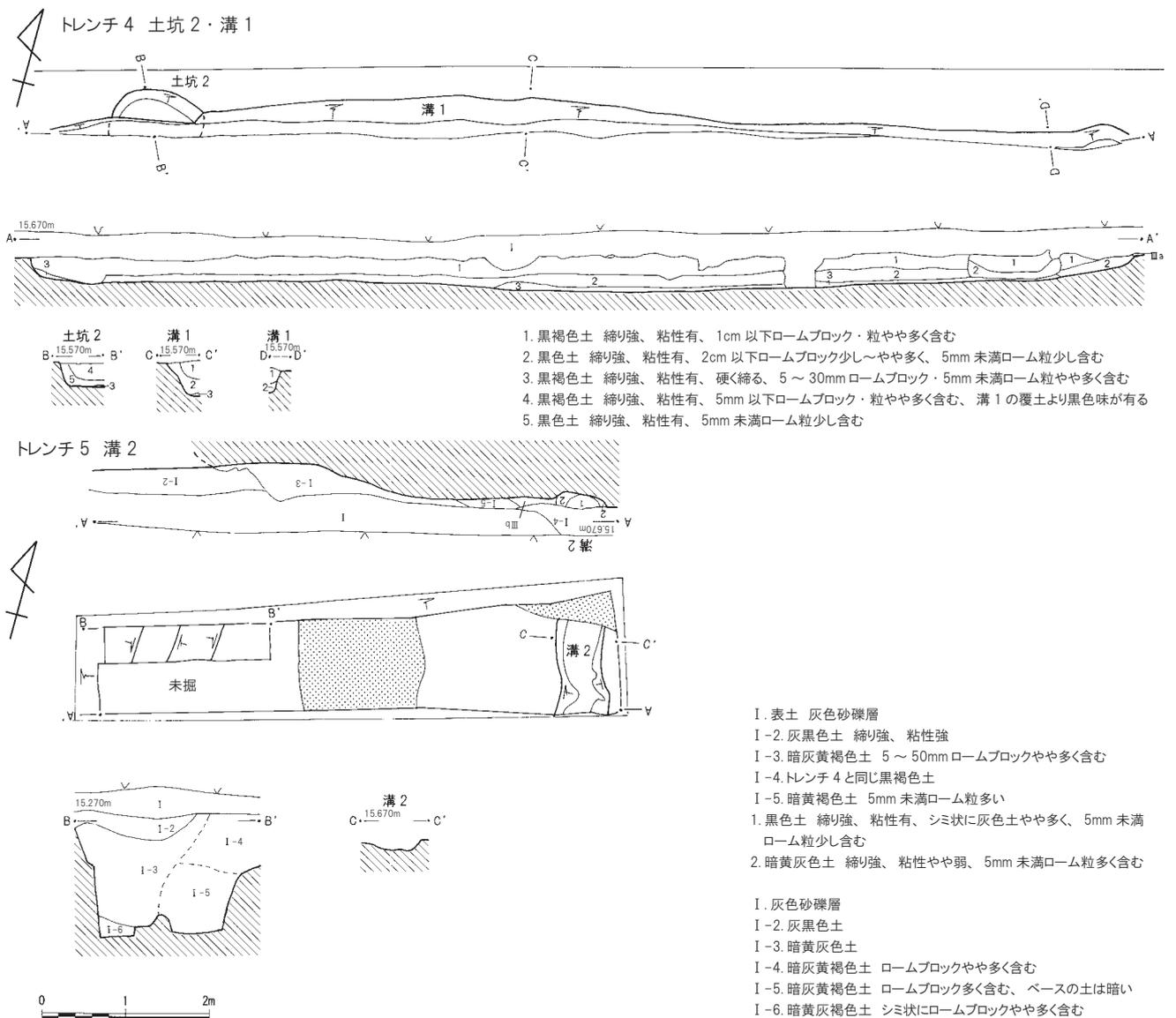
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、やや灰色味が有る、ローム粒・5mm 未満焼土・礫少し含む
2. 暗灰黄褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土を含む、ロームブロック・5～10mm 焼土ブロックやや多く、5mm 未満ローム粒多く含む
3. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、3～10mm 焼土・硬化した5～20mm ロームブロック・2～5mm 炭化物やや多く含む
4. 黄褐色土 締り強、粘性有、ソフト質ローム土主体、3～15mm 焼土・硬化した5～10mm ロームブロック少し含む
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下焼土やや多く含む

第9図 ハケ遺跡第18地点 J34号住居跡埋葬、屋外炉 (1/30)

本の隆帯を巡らせ、口唇部突起のある部分の隆帯には同様に三角形の突起が施され、隆帯脇には沈線を巡らす。胴部は地文L r 撚糸文で、2本組み沈線の懸垂文間を磨消し、「∩」字状の区画内に沈線文を施す。

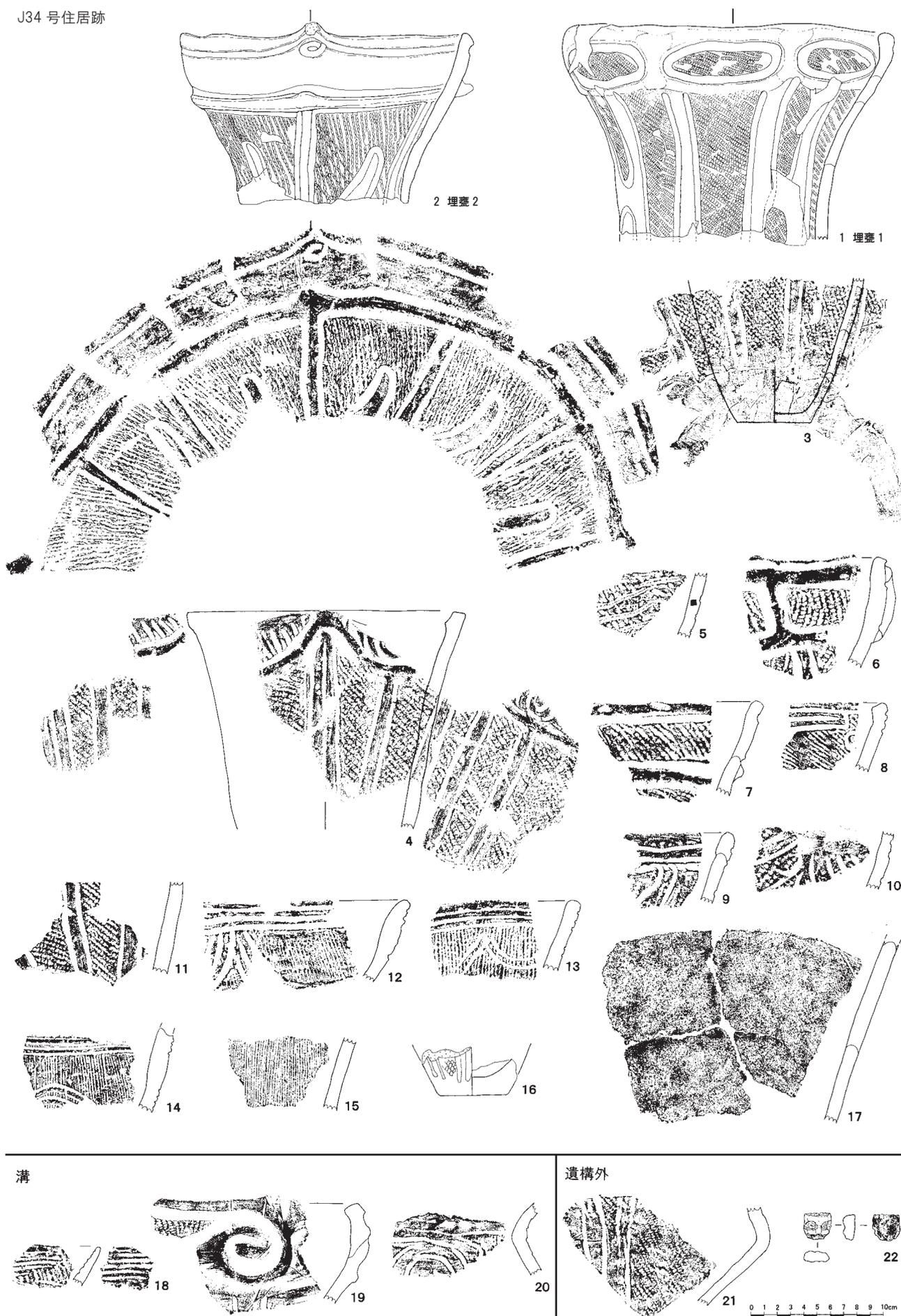
3は胴部以下で、底径5cm、残存高11cmである。地文L R L 縄文に2本組み沈線の懸垂文間を磨消す。4は緩い波状口縁とみられ、口縁部から胴部の1/3を残存する。口縁部は隆帯の半円形区画内に太い沈線文を施す。胴部は地文R 1に2本組み沈線の懸垂文間を磨消す。5は胎土に繊維を含む黒浜式土器で軸縄R 1に2本のR 1を逆巻きに付加する。6は口縁部隆帯の区画内にR 1縄文を施し、頸部以下には地文縄文に2本組み沈線を施し、間を磨消す。7は隆帯で口縁部区画を配し、中にR 1縄文を施す。8は、口縁部に沈線文を配し、直下に沈線の円形状の文様も施す。地文は、軸不明の0段rを付加する。9・10は口縁部に、

地文縄文で2本組沈線文地文R 1縄文に2本組み沈線を施す。11はR 1縄文に2本組み沈線の懸垂文間を磨消す。12～14は地文条線に沈線の連弧文を施す。15は地文条線を施す。16は底径5cm残存高3.6cmで懸垂文間を磨消す。17は浅鉢形土器で無文である。18は胎土に繊維を含み、口縁部の内外面に沈線文を施す。19は隆帯で渦巻文を作り沈線で口縁部区画を配し中にR 1縄文を施す。頸部以下は2本組み沈線の懸垂文間を幅広に磨消す。20は沈線の渦巻文、21は地文R L 縄文に3本組み沈線の懸垂文間を磨消す。21、22は浅鉢形土器で内面もよく磨き同一個体の可能性が高い。22は近世以降、土製品のドロメンチ。型抜成型で胎土は橙色、モチーフは動物の顔とみられる。重さ3.33gである。1～17はJ34号住居跡出土、18～20は溝1出土、21～22は遺構外出土遺物である。1は加曾利EⅢ式、2～4、6、7、9～11、



第10図 ハケ遺跡第18地点土坑2、溝1・2(1/80)

J34号住居跡



第11図 ハケ遺跡第18地点出土遺物① (1/4)

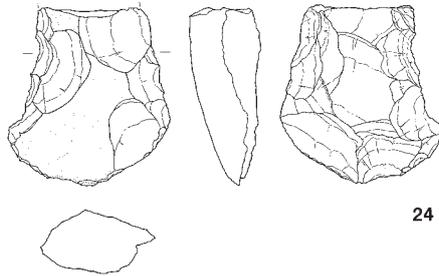
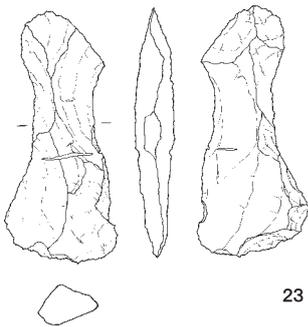
16、19～21 は加曾利 E II～III 式、12～15 は連弧文系である。8 は後期に属するとみられる。

23～25 は J34 号住居跡、26 は溝 1、27～29 は遺構外出土石器である。詳細は第 5 表参照。

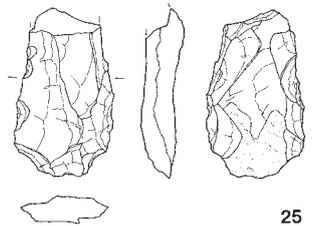
第 5 表 ハケ遺跡第 18 地点出土石器観察表 (単位 cm)

図版番号・No.	遺構名	種別／器形	長さ	幅	厚さ	重量	石材／推定生産地	推定年代	残存／備考
第12図23	J34号住居跡	打製石斧	12.9	5.9	2.0	123.98	ホルンフェルス	縄文時代	完形、No.23・33
第12図24		打製石斧	(9.0)	8.1	3.1	257.49	砂岩	縄文時代	上部欠損、P1
第12図25	溝1	打製石斧	(8.6)	5.0	1.9	95.00	砂岩	縄文時代	上部欠損
第12図26	表土一括	打製石斧	(7.0)	6.0	1.8	93.54	砂岩	縄文時代	上部欠損
第12図27	2トレンチ	打製石斧	9.7	2.9	1.1	33.86	結晶片岩	縄文時代	完形
第12図28		敲石	12.1	3.9	1.4	117.71	砂岩	縄文時代	完形

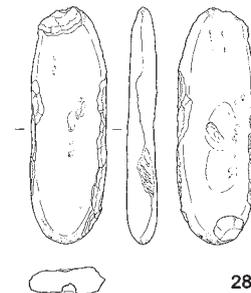
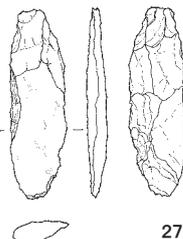
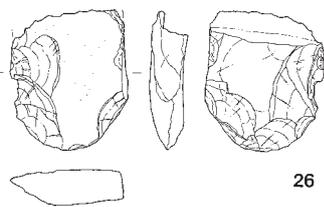
J34 号住居跡



溝 1



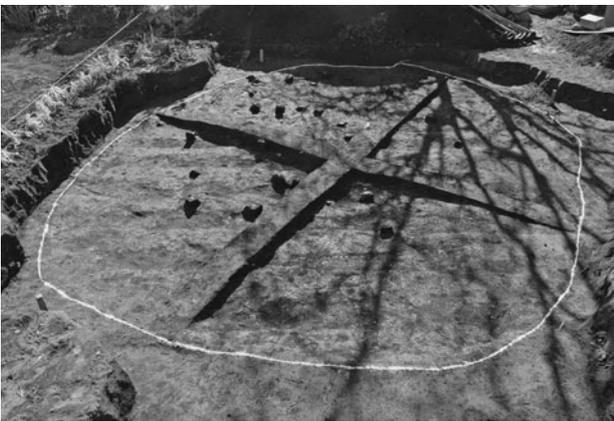
遺構外



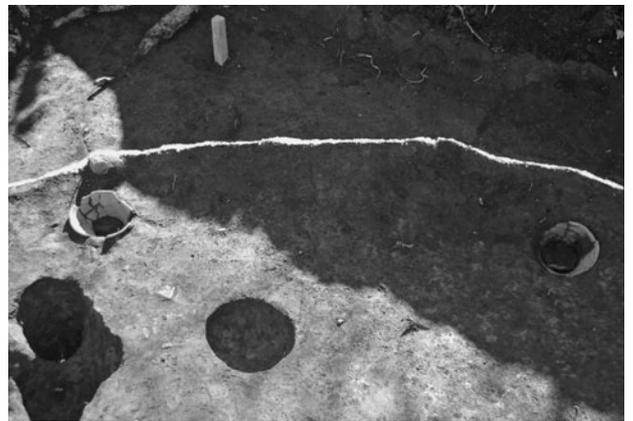
第 12 図 ハケ遺跡第 18 地点出土遺物② (1/4)



ハケ遺跡第 18 地点 J34 号住居跡全景



ハケ遺跡第 18 地点 J34 号住居跡遺物出土状況



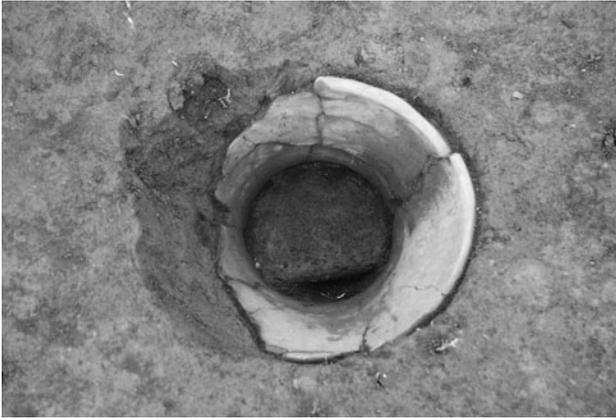
ハケ遺跡第 18 地点 J34 号住居跡埋甕 1・2



ハケ遺跡第 18 地点 J34 号住居跡全景



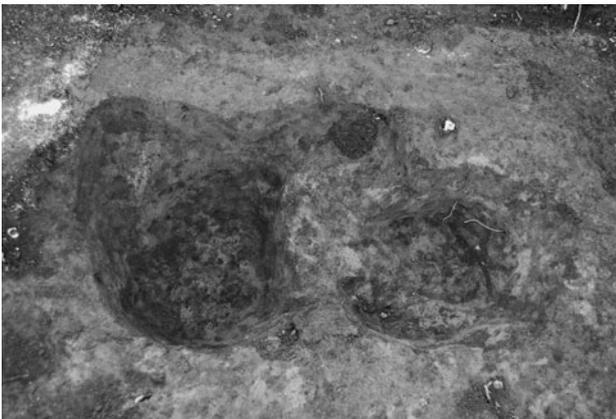
ハケ遺跡第 18 地点 J34 号住居跡埋甕



ハケ遺跡第 18 地点 J34 号住居跡埋甕 1 出土状況



ハケ遺跡第 18 地点 J34 号住居跡埋甕 1 出土状況



ハケ遺跡第 18 地点 J34 号住居跡埋甕 1 掘方



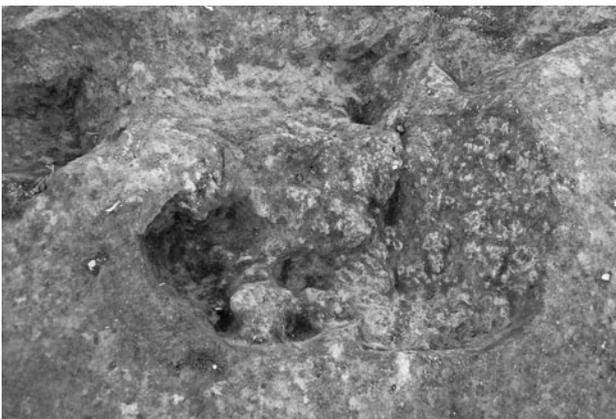
ハケ遺跡第 18 地点 J34 号住居跡埋甕 2 出土状況



ハケ遺跡第 18 地点 J34 号住居跡埋甕 2 掘方



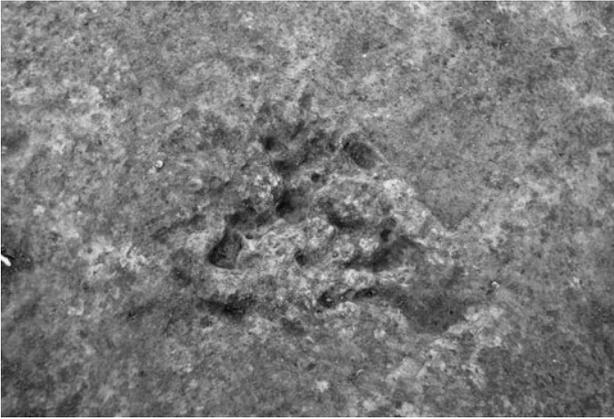
ハケ遺跡第 18 地点 J34 号住居跡炉 1 土層



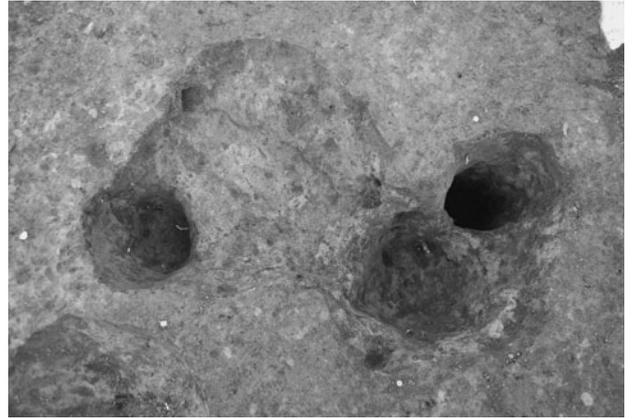
ハケ遺跡第 18 地点 J34 号住居跡炉 2



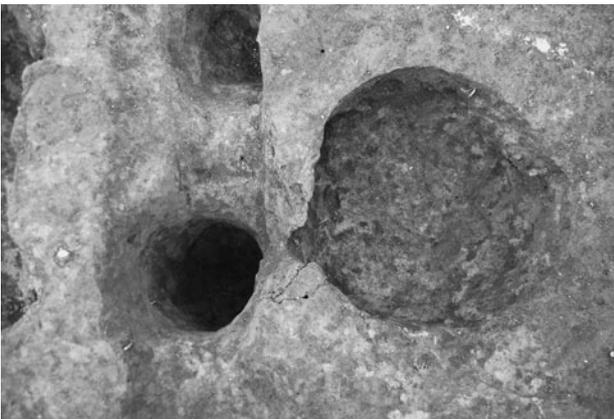
ハケ遺跡第 18 地点 J34 号住居跡炉 3



ハケ遺跡第 18 地点 J34 号住居跡炉 4



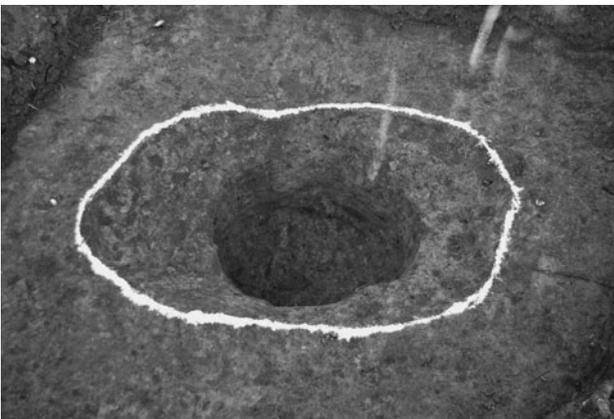
ハケ遺跡第 18 地点ピット 12・13・20



ハケ遺跡第 18 地点ピット 14・18



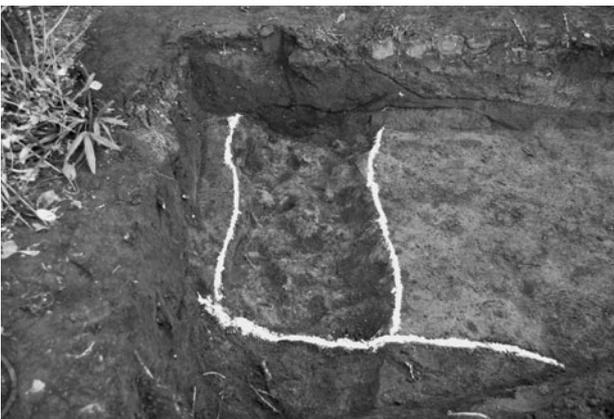
ハケ遺跡第 18 地点屋外炉 1



ハケ遺跡第 18 地点屋外炉 2・土坑 1



ハケ遺跡第 18 地点トレンチ 4 土坑 2・溝 1



ハケ遺跡第 18 地点トレンチ 5 溝 2



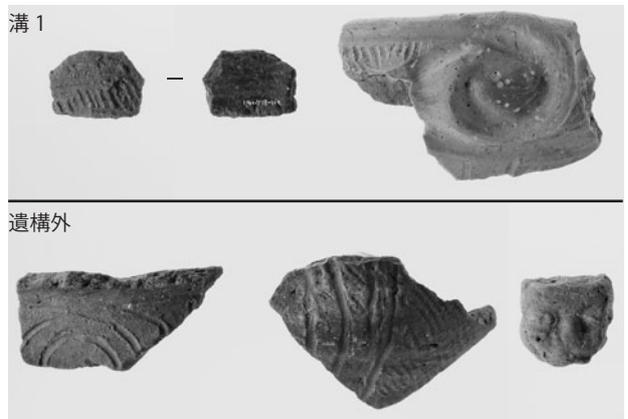
ハケ遺跡第 18 地点調査風景



ハケ遺跡第 18 地点 J34 号住居跡出土遺物



ハケ遺跡第 18 地点 J34 号住居跡出土遺物



ハケ遺跡第 18 地点 J34 号住居跡出土遺物 No.5 ~ 15・17

ハケ遺跡第 18 地点 溝 1・遺構外出土遺物 No.18 ~ 22



ハケ遺跡第 18 地点出土石器 No.23 ~ 28